

# 「人間・動物・モノ」の境界とは？

—アフリカ・メラネシアの地域研究への貢献—

## 本ワークショップの目的と実施報告

本ワークショップでは、「人間・動物・モノ」が関わりあう状況と関係性を「境界」と呼ぶ立場をとり、その「境界」という概念から、各発表者は、主体である生き物と客体である他の生き物やモノとのあいだに、どのような境界が生まれているかに焦点をあて、それぞれの事例のあいだに、なんらかの共通性や差異を見出しながら比較検討を試みた。中村は、人間と人間以外のあいだを揺れ動きながら境界が構築されてきた類人猿の科学的な分類を取り上げ、須田は、アフリカの農耕民の呪術的想像力の世界においては、呪物に表象される周辺民族(人間)とX線機器(モノ)は同様に取り込まれる事例を提示し、保坂は、チンパンジーが狩猟対象に持つイメージや、実際に狩猟をおこなう際にどのようなことが起きているのかを異種間のあいだ、そしてイメージと実体とのあいだの事例を取り上げながらそれぞれが発表を行った。その後、25名の参加者で総合討論をおこない、活発な意見交換が行われた。

## ワークショップの概要

【日時】2013年2月2日(土)14:00-20:00

【会場】東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所306 MMセミナー室

### 【プログラム】

司会：伊藤詞子(京都大学)

14:00 趣旨説明

14:15 中村美知夫(京都大学)

「類人猿はかつて人間だった？—西洋文化＝科学における『人間』の境界の変遷」

15:00 須田征志(名古屋大学)

「ひょうたんはモノなのか？—人間とモノの境界」

15:45 保坂和彦(鎌倉女子大学)

「捕食とカニバリズムの境界—チンパンジーにとって殺して食べるサルとは何者か」

16:30 コーヒーブレイク

16:45 「地域研究の可能性—メラネシアからの視点」

コメント：古澤拓郎(京都大学)・田所聖志(東京大学)

### 総合討論

溝口大助(九州大学大学院)、田代靖子(林原類人猿研究センター)

西江仁徳(京都大学)、花村俊吉(京都大学)、西川真理(京都大学)

